

平成29年10月1日〔日〕 開場13時／開演13時30分

二十四節気より

秋分

蟄虫坯戸

むしかくれてとをふさぐ

西新宿の高層ビルが建ち並ぶ中、取り残された異空間のようにひっそりとたたずむ代々木能舞台。大正・昭和初期、都内に数箇所存在していた屋敷内能舞台は、現今では数少ない遺構のひとつとなりました。四季を感じる開放的なこの空間にはかつて能が屋外で演じられていたことを知る原風景があります。屋内の敷舞台は昭和8年、中庭に面した本舞台は昭和25年の築造で、平成21年に国の登録有形文化財に指定されました。この能舞台を代々守り続けてきたのは観世流を代表するシテ方の一つ、浅見家です。浅見家は数千点におよぶ能装束や面、舞台道具をコレクションし、能の普及に努めています。

本公演は、代々木能舞台の特徴の一つである季節を感じとりながら、能のみならず、ジャンルをこえ、ダイジェスト的に日本文化を楽しんでいただくものです。このたびは「語り」をテーマに、落語よりもその歴史が古いとされている「講談」からは人間国宝の一龍齋貞水さんをお招きして、名作「勧進帳」をお送りします。そして江戸前狂言、和泉流からは高野和憲さんによる「奈須与市語」。一人で義経・実基・与市・語り手の四役を演じ分け、扇一枚で緊張した場面を見せます。能は「紅葉狩」より、後シテを装束をつけて行う能舞です。観世流の浅見慈一さんが華麗に披露します。初秋の昼下がり、伝統文化の豪華なプログラムをご堪能ください。

順不同

二十四節気より―秋分―蟄虫坯戸―

平成29年10月1日〔日〕 開場・13時／開演 13時30分
会場・代々木能舞台 東京都渋谷区代々木4-36-14
URL=www.yoyoginobutai.com

主催・代々木能舞台文化公演世話人会
後援・渋谷区

「プログラム」

講談「勧進帳」

人間国宝 一龍齋貞水

狂言「奈須与市語」

和泉流 高野 和憲

お話「渋谷区の多彩な文化発信」

渋谷区長 長谷部 健

能舞（装束付）「紅葉狩」

観世流 浅見 慈一 他

呈茶

「お申し込み方法」

―定員70名／ご参加料金お一人様12,000円（自由席）

―（1）プレイガイド カンファティ http://confeti-web.com/

電話：0120-240-540（平日10時～18時）

（2）事務局メールでのお申込み yoyogicuture@gmail.com

※お名前とお申込み人数、ご連絡先をお送りください。受付完了後、お振込のご案内を致します。

※平成29年9月22日までにお申し込みお振込をお願いいたします。

お問い合わせ・代々木能舞台事務局

yoyogicuture@gmail.com

電話：03-3370-2757

「出演者プロフィール」

講談師 一龍齋貞水 ― Tetsu Ichiryusai

1939年東京都生まれ。講談師、重要無形文化財保持者（人間国宝）。1955年先代一龍齋貞丈に入門。1966年真打に昇進。六代目一龍齋貞水を襲名。「講談は守るべきものと開拓すべきものがある」を座右の銘とする大看板真打。特に怪談に関しては特殊演出効果を駆使した「立体怪談」と、その取り組みが関心を呼び「怪談の貞水」と言われる。

狂言師 高野和憲 ― Kazunori Takano

1972年生まれ。野村万作に師事。国立能楽堂・能楽三役第四期研修修了。能楽協会会員。万作一門の若手研鑽会「狂言ざん座」同人。すでに『奈須与市語』『三番叟』『釣狐』等も披露、「万作の会」の演者の一人として国内外の狂言・能公演に出演している。朝日カルチャーセンターおよび新国立劇場演劇研修所講師。

能楽師 浅見慈一 ― Jichi Asami

観世流シテ方能楽師。鍊仙会所属。観世流シテ方職分家長老浅見真高の長男。父及び故八世観世鍊之亟に師事。三歳の時、仕舞「老松」で初舞台。1997年、準職分認定。海外公演や新作能、復曲能、映画等にも多数参加。父が主宰する代々木果協会（かちようかい）を補佐し、代々木能舞台において定期的に公演を行っている。